

県と仏デイジョン 国際交流を促進へ

覚書締結 特産、観光アピール

県は20日、フランス中東部の自治体連合「デイジョンメトロポール」と国際交流を促進するための覚書を

結んだ。相互に特産の食品や観光資源をアピールし、人的な往来の促進につなげる狙い。

デイジョンメトロポールは「食とワインの都」といわれるデイジョン市を中心に23自治体で構成する。総人口は約26万人。デイジョン市のブルゴーニュ大が、熊本市の崇城大と発酵分野で共同研究に取り組んでいる縁もあり、デイジョン側が覚書締結を提案した。

渡仏した木村敬副知事は20日、くまモンを連れ、デイジョンメトロポールのフランソワ・レブサメン会長を訪問。①住民同士の友好②食品産業や観光分野などでの経済交流③発酵分野を中心とする学術研究での協力―を盛り込んだ覚書を交わした。

木村副知事、職員、くまモン隊は18日から21日まで滞在。現地で開催中のイベント「ジャパンウィーク」

に、県のブースを出展して、米やみそ、球磨焼酎などをPRしている。訪問団12人の渡航費（飛行機代、ホテル代）は約700万円。

県観光国際政策課の担当者「覚書や今回の訪問を相互交流の足掛かりにした」と話している。

（横川千夏）